

## 放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果

公表日: 令和3年5月12日

事業所名: 放課後等デイサービスふらすこ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。  
 評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2	1	0	・適切にスペースを利用している。	20	4	0	0	・もう少し広いと良いが、公園など屋外の施設を利用するなどの工夫がされている。	・スペースを十分に活用できるように工夫する。
	2 職員の適切な配置	1	1	1	・配置基準は満たしている。	17	0	0	7	・専門の資格を持っているスタッフかどうか把握できていない人もいる。	・スタッフの名簿や資格をHPなどを活用して公表する。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	2	1	0	・設備をわかりやすく、使いやすいように整備している。	22	1	0	1	・子どもにわかりやすいようにしてもらえた。 ・施設内の工夫や配慮などが伝わりにくい。	・今後も一人一人の特性に応じた設備の整備を心がける。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	1	2	0	・常に清潔な状態を維持し、充実した空間を確保していく。	23	1	0	0		・子どもたちにとって居心地の良い空間を継続して確保する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	1	2	0	・PDCAサイクルを意識し、業務改善を進めていく。	/	/	/	/		・職員同士のコミュニケーションの場を増やしていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	0	1	2	・第三者評価を受けていないので、今後は評価を受け、業務改善を実施していく。	/	/	/	/		・アンケート等の内容を検討し、実施する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	1	2	0	・外部の研修会などに積極的に参加する。	/	/	/	/		・研修会に参加し、それを職員同士で共有していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	3	0	0	・アセスメントを適切に行ったうえで、支援計画が作成できている。	24	0	0	0	・モニタリングや計画書を作成する際、保護者との面談の元、意向に沿った計画書が作成できている。	・今後も子どもと保護者のニーズや課題を的確に捉えていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	2	1	0	・日々の連絡ノートが具体性に欠けるため、適切なものを準備する予定である。	23	1	0	0	・日々の様子やノートの内容が具体性に欠けており、計画書と連動していない。	・具体的な支援項目と内容を明確にしたノートを毎日提供する。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	2	1	0	・具体的な支援内容を設定し、計画を作成している。	/	/	/	/		・継続して行き、子どもたちの状況により応じた計画を作成していく。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供（続き）	4	1	2	0	・ひとり一人の特性に応じた支援を実施していく。	24	0	0	0	・支援の過程、何を目的としているのか保護者に伝わりにくい。	・支援内容を明確にし、その情報を保護者と共有していく。
	5	3	0	0	・各職員がプログラムを立案し、それらを元に全体で話し合っている。	/	/	/	/	/	・今後も施設全体で活動プログラムをについて話し合い、それらを実施していく。
	6	2	1	0	・季節や流行に合わせた活動を実施している。	22	1	0	1	・日々の活動や土曜日の活動内容は他と比べ創意工夫されている。	・同じことの繰り返しにならないように、新しいものをどんどん取り入れていく。
	7	0	3	0	・それぞれ活動時間が異なるため、工夫して支援していく。	/	/	/	/	/	・活動日に応じた支援を計画し、よりよい支援を提供していく。
	8	2	1	0	・日々のミーティングで確認を行っている。	/	/	/	/	/	・前日の反省も踏まえたミーティングを行う。
	9	3	0	0	・日々のミーティングで情報を共有している。	/	/	/	/	/	・その日の職員だけでなく、全職員が情報を共有できるように工夫をしていく。
	10	3	0	0	・児発管を中心に、検証・改善を継続実施している。	/	/	/	/	/	・児発管だけに任せるのではなく、チェック体制を整えていく。
	11	2	1	0	・児発管を中心に、計画の見直しを行っている。	/	/	/	/	/	・定期的に職員会議を実施し、チームとして計画の見直しを行う。
関係機関との連携	1	2	1	0	・児発管だけの担当者会になってしまっているため、子どもの状況に精通した最もふさわしい者も会議に参加していく。	/	/	/	/	/	・児発管及び子どもの状況に精通した最もふさわしい者が会議に参加する。
	2	/	/	/	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	/	/	/	/	/	/

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	1	2	0	・各機関と連携を取り、情報の共有をしていく。	/	/	/	/	/	・各機関と連携を取り、支援内容など、十分な情報の共有をしていく。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	0	3	0	・他事業所に対して、具体的な情報の提供を行っていく。	/	/	/	/	/	・継続した支援が行えるように、事業所間で連携し、情報の共有を計画的に行う。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	0	2	1	・専門機関での研修への参加・受講を積極的に促していく。	/	/	/	/	/	・職員が研修会に参加しやすいように人員の配置を整える。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	0	1	2	・新型コロナウイルスの影響も考慮し、今後の課題とする。	5	3	1	15	・これからどの事業所においても課題である。	・新型コロナウイルスの状況も踏まえつつ、児童館や児童クラブの子どもと交流ができる機会やイベントを計画していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	0	1	2	・新型コロナウイルスの影響も考慮し、今後の課題とする。	/	/	/	/	/	・新型コロナウイルスの状況も踏まえつつ、地域住民の方と交流ができる機会やイベントを計画していく。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	3	0	0	・その都度、丁寧な説明を行っている。	23	0	0	1	/	・不明な点がないように、今後も丁寧な説明を継続していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	2	1	0	・その都度、丁寧な説明を行っている。	24	0	0	0	・モニタリングでの面談、計画書の説明がきちんとされている。	・不明な点がないように、今後も丁寧な説明を継続していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	0	1	2	・保護者の方にわかりやすい形でペアレント・トレーニング等を実施していく。	13	2	2	7	・事業所だけが一人走りしないように家庭との連携、保護者同士のつながりを考える上でも大切。	・まずは保護者が学びやすい環境を整える。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	2	1	0	・連絡ノートや送迎時に情報交換を行っている。	23	0	0	0	・ノートや電話連絡等で報告、連絡、相談が行えている。 ・送迎の際にコミュニケーションが取れている。	・連絡ノートや送迎時以外にも保護者の方との連携が取れる機会を増やす。
	5	1	2	0	・送迎時以外にも電話やメールを活用し、保護者の相談に応えている。	21	1	1	0	・モニタリングだけでなく、様々なツールを利用して、保護者とやり取りができる仕組みがあれば良い。	・保護者からの相談に対し、より専門的な対応が取れるように努める。
	6	0	1	2	・保護者同士の連携支援の機会を増やしていく。	7	3	4	9	・これからの活動に期待。	・施設が主導となった保護者会などの開催はできていないので、今後開催を検討・実施していく。
	7	2	1	0		19	2	0	2		・苦情があった場合は、迅速かつ適切に対応する。
	8	2	1	0		22	0	0	1		・保護者だけでなく、子どもに対しても丁寧にわかりやすく説明する。
	9	3	0	0	・連絡ノートは利用日毎に出しており、全体に対しては「ふらすこ通信」を通して発信している。	21	0	0	2		・今後はHPも積極的に活用していく。
10	2	1	0	・鍵付きの書庫にて保管している。	23	0	0	0		・今後も継続して取扱いに注意する。	
非常時等の対応	1	2	1	0	・マニュアルの策定はできているので、周知を徹底していく。	14	1	1	7	・マニュアルや避難場所、非常時の連絡方法などを伝えてほしい。	・すべての利用者に周知し、安心して利用してもらう。
	2	2	1	0	・定期的に避難訓練を実施している。	8	4	0	11	・月の活動で紹介すれば良いと思う。	・避難訓練を実施したときはHPなどを活用し、保護者に発信する。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の 対応（続き）	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	0	2	1	・研修会に参加し、それを全職員で共有していく。	/	/	/	/		・まずは正しい知識を身につけ、それを現場に活かしていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	1	2	0		/	/	/	/		・やむを得ず身体拘束を行った場合、子どもや保護者に十分に説明し、支援計画に記載する。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	2	0	1		/	/	/	/		・保護者からの聞き取りだけでなく、診断書もお預かりする。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	0	3	0	・ヒヤリハットの記載を徹底し、職員で情報を共有する。	/	/	/	/		・情報を共有するだけでなく、対策についても話し合いを行う。